

2019年度

ムサシノ  
スカラシツプ入試

国語総合

(古文選択可・漢文を除く)

[60 分]

## 〔共通問題〕

〔一〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「カワイイ」は現代、女性へ贈る最高のサンジ<sup>(ア)</sup>である。かつての「美しい」や「キレイ」というサンジは、今やカワイイに進化した。さらにカワイイは日本のサブ・カルチャーの海外進出にともない、KAWAIIとなってBONSAI、SAMURAI、GEISYAと同じくらいに普及した世界共通の用語となっている。

日本のサブ・カルチャーはすべてKAWAIIと評され、クール・ジャパン<sup>(a)</sup>のコンセプトがこの一語<sup>(イ)</sup>にシユウヤクされる。現に通勤電車内の女子高生や私の勤める大学のキャンパスでは、すべてカワイイの一言で済ませてしまうカワイイ現象が真つ盛りである。

私の感覚からすると、カワイイは「可愛い」という印象であり、幼い子女や子犬やペットなど小さいものに対する、ある種、憐憫<sup>れんびん</sup>の情の表現である。それゆえ、同年代の女性への形容にはタブーであり、私なぞ一生涯使わない用語だと思っている。ところが先日、授業の際に女子学生から出た「先生、カワイイ」の発言には、す<sup>A</sup>っかり仰天した。

彼女たちのこの用語の使い方をよく観察してみると、世の中のあらゆる対象をまずカワイイものとそうでないものに二分してしまう短絡的で乱暴とも言える分類があるようだ。ところが、日本文化に憧れる外国人にいわせると、KAWAIIは乱暴どころか日本文化のセンスのよさを指し、クール、つまり<sup>(ウ)</sup>センスがよくカッコいい姿・かたちを指す繊細な形容なのである。

このように、一見、<sup>(ウ)</sup>トップにみえるこのカワイイには、かつての日本人が憧れ、目指していた美意識<sup>(b)</sup>のエッセンスが詰め込まれているのではないだろうか。確かにカワイイと形容することばの裏には、キレイや美しく愛らしい、という意味のほかに「萌え<sup>もえ</sup>」という女っぽさや艶っぽさのようなセクシーさのすべてが含まれているように思えてならない。

このことばの由来を江戸時代までさかのぼると、風流や雅<sup>みやび</sup>であり、また数寄<sup>すき</sup>や粋<sup>いき</sup>のような感覚にたどりつく。さらに、平安時代まで時代を戻すと、幽玄<sup>ゆうげん</sup>や侘び<sup>わび</sup>・寂<sup>さび</sup>のもののあわれの心とつながっているではないか。

つまり、かつての茶人や数寄者が求美した粋の精神性は、現代のカッコよさ、さらに言うならば、KAWAIIのルーツとなっていたのではないだろうか。

こうした長いプロセスを踏んで、美というひとつのテーマを連綿と洗練(リファイン)させてきた国は、かつてどこにもない。まさしく、日本人の美意識がなしたカッコいい、不動の美の哲学なのである。

私のこのカワイイ語分析はどこまで正しいのか、知る由もないが、KAWAIIが日本のファッション・コンセプトとして世界中に広まり、

世界のモード界が総カワイイ化に向かっていることは事実だ。

現代、日本のファッションは総じてプリカワ系やカワモテ系、キラモテ系からキラセク系、あるいはセレブ系、コンサバ系、お嬢さま系などに分けられる。そこに一貫しているキーワードは、やはりカワイイやキレイというコンセプトである。

一言、注釈を入れると、プリカワ系はプリティでカワイイの英語と日本語の合成語である。カワモテ系は、文字通り可愛くてモテるファッション。キラモテ系は、キラキラ輝くように男を惹きつける姿。キラセク系は、ちょっとばかり強烈でキラキラしたセクシー系でまとめた、いわゆる水系のファッションのようだ。

これらカワイイ系は、キレイでカワイイ日本の現代女性への誉めことばに違いない。このカワイイ系のことばを聞くと、ジェネレーション・ギャップのせいか、私にはかつての小股の切れ上がった粋で、艶っぽい日本女性の古きよき姿が彷彿としてくる。

今、この日本発信のKAWAII系女性像がファッションを通して全世界に広がっているのだ。

日本発の女性ファッションは、総じて若づくりで、お嬢さま風である。日本人形のように、小顔づくりを善しとし、前髪を一直線にそろえ、可愛く見せる。いわば、アニメのキャラクターのようなロリコン風デザインである。アクセサリーもピンク系かゴールド・シルバー系のキラキララムードが漂い、派手目なものが多い。つまり、ヘアスタイルからファッション、アクセサリー、小物、靴にいたるまで、「カワイイ」のテイストが隠し味となっているのである。

このカワイイ系が現代女性モードのキーワードとなり、欧米の著名なデザイナーが続々と東京詣でし、何かしらカワイイのひらめきを探し当て帰国する。じゃじゃ馬娘で世間を騒がせたホテル王の娘、パリス・ヒルトンやアメリカのポップス歌手、ブリトニー・スピアーズなども大の日本のファッション・ファンである。幾度も来日して渋谷や原宿を訪れ、日本のカジュアルな服やアクセサリーを求めるといふ。ブランドブームの元祖、ルイ・ヴィトン社は二〇〇〇年に入ると日本のカワイイを求め、村上隆と組んで新しいモノグラム・バッグを発表し、日本ブームの先駆けとなった。

ドルチェ・アンド・ガッバーナやモスキーノは、メタリックな新素材と日本のキラセク系やキラモテ系的ファッションで話題を集めた。イタリアの三大ブランドのひとつ、かのグッチも二〇〇一年以来、キモノ風シャツやドレスを発表、胸には牡丹や龍が刺繍されジャポニズムを彷彿させる。登場するスーパーモデルも前髪を日本人形のようにばつさり切りそろえた日本の少女スタイルである。

こうしたカワイイ系の流行は、すでに二〇〇〇年頃からはじまる。当時のパリコレに新作を発表したデザイナー、エチエ・エゲのテーマは「ニッポン」であった。彼女は、二二世紀の近未来都市像は東京であるとコメントしている。これ以降日本のカワイイ系はゾウシヨクの一途をたどっていく。

ところで、この二〇〇三〇年の日本のポップ・カルチャーを振り返ってみると、マンガからアニメ、ゲーム、フィギュア、キャラクター、メ

イド喫茶まで、やはりカワイイ・テイストの粉砂糖が全体にまぶされているような気がする。そして、こうしたサブ・カルチャーに共通する「カワイイ」のコンセプトは、「萌え」であるという。カワイイは単に可愛いだけでなく、ほのかなエロティシズムを漂わせていなければならぬ。萌えはアニメ・キャラクターやフィギュアに求められる必須の要素であり、これを愛好する人々は、ここに深い思い入れを抱くのである。キティ（ハローキティ）やポケモン（ポケット・モンスター）のようなキャラクター・グッズは、一九九〇年代から欧米にも熱烈なファンが急増しているが、これはもうひとつのカワイイのグループである。このグループは、「可愛い」に「単純で害のない癒し効果」の要素が加えられている。カワイイ系の日本のポップ・カルチャーが全世界に広がっているとすれば、『ジャパン・アズ・ナンバーワン』（E・F・ヴォーゲル）と意気軒昂だった、かつての日本経済を凌駕するソフト・パワーに育ってきている、という私たちにとって誇るべき日本文化の新しい潮流が訪れているのかもしれない。

むろん、クール・ジャパンはカワイイ系ばかりでない。

実は、自動車やオートバイ、カメラ、ピアノなどの楽器、家電製品、医療機器、工作機械、ロボット、スーパーコンピュータなどのハイテク製品は、一九七〇年代以来、その高品質とともに優れたデザイン性によって世界を席卷してきた。

現代のプロダクツ・デザインの分野で注目されているのはそればかりではない。かつて日の目をみなかった生活用品や、家具、照明器具などのインテリアから地場産業の和の工芸品までが、今、日本ブームを巻き起こしている。

従来、日本のデザインは明治時代以降、欧米文化に範を置き、日本の伝統イシヨウは古くさく、過去のものという、いわゆるハクライ礼賛主義が大勢を占めていた。建築も家具や生活用品のすべてが、欧風化の一途をたどり、日本全体が近代工業化社会の実現を目指していたのである。ところが、明治時代にあつては、フェノロサやアール・ヌーボーの発端となったビング、大正末期、民芸運動を起した柳宗悦、昭和に入るとフランク・ロイド・ライトやブルーノ・タウトから、戦後はドナルド・キーンらの学者たちが日本文化や伝統美を礼賛し、保存や見直しを進言してきた。彼らの活動によって、日本の知識人がようやく自国の文化にカクセイするという、何とも体たらくな有様だったのである。

戦後二〇年余り、ようやく先のハイテク工業製品とともに、一九六〇年代後半から日本のグラフィック・デザインが世界中の主たるコンペティションにて数々の賞を総なめにするなど、優れたグラフィック・デザイナーが次々と輩出されていった。同じ頃、森英恵や高田賢三、三宅一生ら日本のファッション・デザイナーがキモノを日本の伝統的な視点からモードを捉え直し、パリ・コレクションで一躍注目を浴び、ジャパニーズ・ファッションの存在を海外に印象づけた。これが一九七〇年代からはじまるネオジャポニスムとよぶ新ジャポニスムの潮流である。

そして、現在、ジャパニーズ・クールやクール・ジャパンは、サブ・カルチャーばかりにとどまらず、ひろく、和のデザインがもてはやされている。

ネオジャポニスムの追い風を受けこうして蘇った現代の和のデザインは、琳派など日本の伝統文化の様式美のエッセンスを現代のインターナ

シヨナルなトレンドに落とし込んだグローバルなモダン・デザインであると断言することができる。サブ・カルチャーの話はともかく、なぜ日本のデザインが今、もてはやされるのだろうか。

その理由として次のような日本人特有のシセイ奔放さが考えられる。

日本文化における美は、これまで述べたように西洋の対極にある、自然を虚心で受け入れる美にある。西洋の美が自然を征服した人工の美にあるとしたのに対し、日本の美は自然の中に見出すものである。自然の美しさをいかに再現するかということに、日本人はすべてを託してきた。平安時代に入ると大陸文化の模倣から離れ、日本人独自の文化を少しずつ築きはじめた。それ以降、江戸末期まで、その時代時代の様式美は、すべて花鳥風月に象徴される日本の自然の四季折々の美しさの表現に終始している。

近年の工業化社会の進展による自然破壊や大気汚染など、地球温暖化の環境問題が負のイサンとして地球規模の深刻な問題となった今日、世界の人々はようやく、自然観から教示された日本人の美意識、つまり日本の文化観に強く惹かれはじめたのではないだろうか。

もうひとつの理由として、以下のような分析が成り立つ。かつての日本美は、江戸の琳派のように貴族、武士や町人まで、広く平等に享受できるサブ・カルチャー（大衆文化）であった。これに対し西洋文化は、絵画や彫刻などの純粹芸術や文学、音楽や学問など、貴族やブルジョア階級の限られた人々の特権として享受できる文化、つまりハイ・カルチャー（High Culture）とよばれる上位文化であった。

さらに言うならば琳派の美の様式は、純粹芸術のような芸術家の偏狭な思想や自己表現の表出ではない。琳派の表現は扇絵、団扇絵や陶芸、屏風絵、襖絵から衣装、工芸品などすべて人々が等しく楽しむための実用の対象に施された美の表現、応用美術であることである。こうした分野は現代デザインのコンセプトとまさしく一致する。

こうしてみると、現在日本のマンガ、アニメやゲームからキャラクターなどのロー・カルチャー（Low Culture）が世界を席卷している理由が、当然の帰結であったと言えるのではないか。

なぜならば現代のサブ・カルチャーとは、国や地域を問わず、階級や身分に関係なく求めれば平等にこれらを享受できるものだからだ。かつて、西洋の芸術がオウコウ貴族やブルジョワ層に限られていたのとは対極である。

一方、繰り返し述べたとおり、自然美をрутとする日本人の美意識が育んだ芸術は、特定の為政者や権力者の利便性や欲望とはまったく異なる次元に価値を置く、ソフトなものであった。

今日のサブ・カルチャーが生みだされる源泉には、クリエイティブなデザインの創造性がある。そこで、日本人の伝統的なソフトなコンテンツに対する感覚が生きてくる。日本人のソフト・パワーが、グローバルな文化力の根幹となりうるのだ。優れたソフト・パワーがその国の文化力を高め、世界に共通する柔らかい感性を育んで未来を切り開いていく構図は、かつてのイギリスからはじまった産業革命の状況と似ている。ただし、産業革命が限りあるエネルギーを費やすハードな技術革命であったのに対し、ソフトによる革命を生みだす人々の創造性、ソフト・パ

ワーには限りがない。

クール・ジャパンともてはやされる日本の現代デザインには、こうした理由が背景にあったのである。したがって、現代のクール・ジャパン現象は一時的な流行に終わるものではなく、今後とも、日本文化が世界をリードしつづけることは、疑う余地もないのである。

(三井秀樹『かたちの日本美』による)

(注1) フェノロサ……アメリカの哲学者・美術研究家で、特に日本画の復興に努めた(一八五三～一九〇八)。

(注2) アール・ヌーボー……十九世紀末から二十世紀初頭にかけてフランスを中心にヨーロッパ各国で流行した、フランス語で新しい芸術を意味する芸術様式で、その名称はビング(一八三八～一九〇五)がパリに開いた美術品店名に由来する。

(注3) 民芸運動……柳宗悦(一八八九～一九六一)によって提唱された、明治の工芸振興策が置きざりにしてきた民衆の日常雑器のなかにこそ美があると主張する運動。

(注4) フランク・ロイド・ライト……アメリカの建築家で、旧帝国ホテル、自由学園などの日本における建築作品が現存する(一八六七～一九五九)。

(注5) ブルーノ・タウト……ドイツの建築家で、著書『日本美の再発見』で桂離宮や白川郷の合掌造り集落などを称賛した(一八八〇～一九三八)。

(注6) 琳派……俵屋宗達や尾形光琳などに代表される大和絵を基本とする装飾的な画派であり、絵画ばかりでなく工芸作品も多い。

問一 傍線部(ア)～(コ)の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は 1 )

10。

(ア) サンジ

- ① ジセツ柄ご自愛下さい
- ② 勤めていた会社にジヒヨウを出した
- ③ 交通ジコに気をつけよう
- ④ ジヒで出版した本が好評だ
- ⑤ ジアイに満ちた表情の人形だ

1

(イ) シュウヤク

- ① 生活シュウカンを改める
- ② シュウネンを燃やしやり遂げる
- ③ 駅でシュウカン誌を購入する
- ④ 地域のシュウカイに参加する
- ⑤ ついにサイシュウ巻が発売された漫画

2

(ウ) トッピ

- ① ヒレンの物語に涙する
- ② ヒジョウ口から外に出る
- ③ 現実からトウヒする
- ④ 城にヒゾウされていた宝物
- ⑤ 不思議なヒコウ物体を見た

3

(エ) ゾウシヨク

4

- ① ハンシヨク能力の高い品種
- ② 敵方と内密の内にセツシヨクする
- ③ 皮膚のイシヨク手術
- ④ ダンシヨクのじゅうたんを敷きたい
- ⑤ 明日の晩はガイシヨクしよう

(オ) イシヨウ

5

- ① カンシヨウ的な気分になる
- ② 軍備をシユクシヨウする
- ③ 運営にシシヨウが出る
- ④ シシヨウについて三味線を学ぶ
- ⑤ 絵画をカンシヨウする

(カ) ハクライ

6

- ① キンパクした空気に包まれる
- ② タンパクな味が好みである
- ③ センパクの航行を妨げてはならない
- ④ サンパク四日の旅に出る
- ⑤ 次の小節でイツパク休む

(キ) カクセイ

7

- ① ホカクされた猛獣
- ② ミカクが優れている調理師
- ③ 制度のヘンカクに取り組む
- ④ 班のチュウカクとなる人物がいない
- ⑤ 顔のリンカクを描く



(ク) シセイ

8

- ① シボウが落ちて身が軽くなった
- ② 図書館のシシヨになりたい
- ③ 倒産によってシサンを失った
- ④ 新聞のシメンをにぎわす事件
- ⑤ 鬼からヒッシになって逃げまわる

(ケ) イサン

9

- ① 除雪機がイリヨクを發揮する
- ② 駅のイシツ物係
- ③ キヨウイを測定する
- ④ 新しいセンイを開發する
- ⑤ 事件のケイイを説明する

(コ) オウコウ

10

- ① 老朽化したコウシヤを建て替える
- ② 免許更新のコウシユウ
- ③ コウゴにサーブを打つ
- ④ 先祖はコウシヤクの家柄だ
- ⑤ ネンコウ序列に異議を唱える

問二 傍線部 (a) ～ (e) の本文中における意味として、最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は  ～ 。

(a) コンセプト

- ① 直接に相手と連絡をとること
- ② 意見の一致や合意
- ③ 骨格となる発想や観点
- ④ ものごとの調子と状態
- ⑤ 特徴的な相違、差異

(b) エッセンス

- ① ものごとの本質や精髓
- ② 芳香性のある成分
- ③ 機知や才覚
- ④ 評価や査定
- ⑤ 化学的な成分

(c) メタリック

- ① 象徴的であるさま
- ② 神秘的であるさま
- ③ 暗い色合いのさま
- ④ 金属的であるさま
- ⑤ 鋭い光を放つさま

(d) ポップ・カルチャー

14

- ① 客の購買意欲を刺激する文化
- ② 躍動的、または弾力性に富んだ文化
- ③ 利潤を追求する文化
- ④ 色彩豊かで変形自在な文化
- ⑤ 大衆向き、かつ同時代的感覚を備えた文化

(e) コンテンツ

15

- ① 連絡、交渉
- ② 中身、内容
- ③ 価値、評価
- ④ 目次、順番
- ⑤ 規準、標準

問三 傍線部A「すっかり仰天した」理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 16。

- ① 筆者は、先生のことをあわれむような発言をする大学生が世の中にいるとは思ってもいなかったから。
- ② 大学に通う女子大学生たちが単純で大きっぱなものごとのとらえ方をすることは、筆者には信じられなかったから。
- ③ 大学の教員である筆者は、自分に「可愛い」につながる要素が備わっているとは考えていなかったから。
- ④ 学生たちに、己の中に隠されていた繊細さを指摘され、新たな自分を発見したことに喜びがこみ上げて来たから。
- ⑤ 言語学者である筆者は、日本人のものを形容する用語に変化が見えた決定的な瞬間をとらえられた気がしたから。

問四 傍線部B「まさしく、日本人の美意識がなしたカッコいい、不動の美の哲学なのである」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 17。

- ① 日本人の美意識の根元には、いつも幽玄や侘び・寂の心があったのであり、風流や雅ということばは結局は同じものを指していた。
- ② 長く時代を経る過程でその美意識に変化や変遷はあろうとも、日本人は自分たちの美というテーマを絶えず追求し問い掛けてきた。
- ③ 現代日本の女子学生のカワイイには、かつての茶人や数寄人が有していた精神性と同じものが込められていると断定できる。
- ④ 日本のKAWAIIは、世界中のどこに行っても負けることのない、日本人の崇高な精神性に支えられてきた美意識である。
- ⑤ もののあわれという究極的な心に日本人は支えられ続けて生きてきたのであるから、日本の美意識が海外のものに劣るはずはない。

問五 傍線部C「なぜ日本のデザインが今、もてはやされるのだろうか」の問い掛けに対する回答として**適切でない**ものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 18。

- ① 自然をわだかまりなく受け入れ花鳥風月の美の表現を追求してきた日本人の文化観が、現代に生きる世界の人々を魅了するのである。
- ② ハイ・カルチャーに育まれた西洋の美意識に比して、サブ・カルチャーに根ざす日本の美意識は広く享受される性質を備えていた。
- ③ ブルジョア階級の上位文化に接近し得なかった西洋の人々が、日本の大衆文化に新たな技術革命を生み出す可能性を見出したのである。
- ④ 自然を超越した人工美に対して、自然のあるがままの中に美を見出しその再現に努めてきた日本人の美意識に注目が集まっている。
- ⑤ 近年の地球規模の差し迫った環境問題に接し、自然観が育んだ美意識が世界の人々の心に強く訴えかけるようになってきた。

問六 本文の「クール・ジャパン」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 19。

- ① 日本の政府や政府関連企業の働きかけによって普及した文化や概念に対して否定的な立場をとるものであり、生みだされた作品や商品などには権力に対抗する意識が読み取れる。
- ② 日本のアニメや漫画、コンピュータ・ゲームなどのエンターテインメントのうち、海外の人によって日本の伝統的な文化が反映されていると認められた商品に特化して言われる。
- ③ 海外に進出する日本企業に対して、日本政府が支援をすることによって生みだされたファッションや食文化などのことであり、その後には政策的な戦略が隠されている。
- ④ 主にクール、すなわちセンスがよくカッコいいという言葉にふさわしいアニメやマンガなどを指すために生みだされた言葉であり、本来は日本に関係しているか否かは注目されることはない。
- ⑤ 日本の様々な分野の商品・サービス・文化などが、その品質ばかりでなく、姿・かたちについてもカッコいいと評価され、外国の人々に受け入れられている現象である。

問七 本文の内容と合致するものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし解答順は問わない。解答番号は  ・  。

- ① 現代日本の街行く女性たちを観察することでカワイイ系の核心に迫ることが出来るはずだと確信し、多くの欧米の有名なデザイナーたちが原宿や渋谷に何度も訪れている。
- ② 日本のサブ・カルチャーが世界をリードし続けているその源泉には、社会的な身分や階層に隔てられることのない、日本人の自然美をルーツとする美意識とそれに培われた創造性がある。
- ③ キティやポケモンのグッズは、一九九〇年代の欧米の若者の官能的な美を求める欲求には応ずることが出来なかったが、かつて世界を席巻した日本経済に取って代わるような魅力が秘められていた。
- ④ クール・ジャパンの現代デザインが今後も享受され続け、やがては世界中の人々が、ハイ・カルチャーとよばれる上位文化よりも日本人の美意識の方が社会的価値が高いことに気づくことだろう。
- ⑤ 現代の日本女性のプリカワ系やカワモテ系などのファッションは、かつての日本女性の粋で艶っぽい、古きよきファッションと何らかわることのないエロテイシズムを漂わせている。
- ⑥ 日本の知識人たちが、明治から昭和の時代にかけての欧米の学者らの進言などによって、自国日本の文化や伝統美の価値の偉大さに気が付くようになったということは、思えば皮肉なことであった。

〔選択問題〕〈現代文〉か〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみを答えなさい。

〔二〕〈現代文〉 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

わかるということがどういうことかを、ここで説明したり考察したりするつもりはない。わかるという行為については、認知科学をはじめとして、無数の考察が行われている。それらを読んでいると、わかるという行為がますますわかりにくくなってしまっておそれさえある。それをひとまずおくことにして、ここでは、それをことばの問題としてとらえる。それも、日本語に限定することにする。

ことばの問題としてとらえるということは、ことばを手段としなくても、わかる場合があることを意味している。行き先の地理が不案内で、人にたずねることは、いくらでもある。ただし、たずねるべき適当な人が見つからなくても、道ばたに地図があれば、それで事がすむ。先にことばによる説明を聞いていても、実はよくわかっていなくて、地図を見つけて、納得することもある。

辞書の役割のひとつは、ことばの意味を知ることにある。しかし、辞書はことばでことばを説明することを原則としている。「草摺り」という語を調べようとしても、「よろいの胴の下にたらしめて、腰から下をおおうもの」というだけでは、なんだかわからない。古語辞典などで、図がそえられていれば、一応は理解できる。しかし、なぜそれが「草」＋「摺り」という語構成をもっているのかということは、図ではもちろんのこと、説明を読んでもよくはわからない。

このように、図を見れば一目瞭然とまではいかなくても理解の支えになる語はよいが、ごく基本的な語の中には、図を使うこともむずかしいものがある。よく例にあげられるのが「左」「右」「北」「南」というような抽象性の高い語である。これには、「ご飯を食べるときに、ふつう箸を持つほうの側」といった苦勞をしなければならないが、「ふつう」という語の使いかたには、きわめて神経を使わなければならない。

ことばを使わなくても、つたえようとすることが相手にとどくことがあることを意味する慣用句がある。「a」「b」などがそれぞれある。人と人とのコミュニケーションでは、ことば以外に表情やしぐさなどの補助手段で、相手の意志が理解できることがある。この能力は人によって同じではないが、なんでもわかった、わかったと、のみこんでしまうタイプの人物がある。落語にはこのような類型的人物が登場する。道をはさんだ商家の息子と娘がそれぞれ別の事情で帰宅が遅くなる。双方の家では、こらしめのため、家に入れてやらない。困ったふたりは、ことばを交わす。息子は、歩いて行かれるところに叔父がいるので、そこに泊めてもらおうという。娘は、わたしもそこに一緒に連れて行つてと頼むが、息子はことわる。叔父はひとり合点が強く、こんな遅い時間に一緒に行つたらば、どんな誤解をされるかわからないといいそえる。振り切ろうとする息子に娘はついてきてしまう。<sup>(2)</sup>はたして、叔父は誤解をする。

「いや、なんにもおっしやるな、なんにもおっしやるな。万事はじじいの胸にございます。悪いようにはいたしません。気がねをするも

のは、だアレもおりません。わたくしと寝ぼけばあのふたりきりでござい…」

(落語「宮戸川」)

この誤解がもとで、ふたりはめでたく結ばれる。ふたりは幼なじみで、娘は息子にもともと好意をいだいていた。これは、視覚的な状況をおもな根拠にして、推測をする人物の例である。われわれのコミュニケーションは、多くの場合、ことばですべてを説明することはなく、大体の状況で判断を行っている。家族だの同僚だのといった、ふだん顔をつきあわせている人間どうしのあいだならば、当然のことである。

以上にのべたように、われわれのコミュニケーションでは、その手段として、かならずしも、ことばが唯一のものではない。しかし、何かをつたえようとするとときに、ことばがもっとも便利な手段であることを、われわれは知っている、いや、それは逆で、何かをつたえようとするとときに、どうしても必要なものとして、ヒトはことばをつくりだし、発達させてきたのである。

人間ほど発達したものでなくても、動物のコミュニケーションでは、ことばに似た機能をもつものがある。サルなどの哺乳類では、鳴き声やうなり声などがなんらかの知らせであるとみられることがある。あるいは、ミツバチのような昆虫でも、羽の振動が情報伝達の手段であるといわれる。

しかし、ヒトのことばは、その分節性と総合力において、他の手段をはるかに上回り、人類の発達を支える原動力ともなってきた。有限の音素やコントロール可能な形態素(註)の組み合わせにより、あらゆる情報を体系化し蓄積することもできるようになった。文法的に誤りがなければ、どの言語にも共通する文という形式は、なんらかの意味をつたえることが可能である。もともと、そのことは、文法的に正しくさえあれば、意味がかならずつたわることを保障してはいない。

ここで問題にしようとするのは、人間の心の奥ひだに存在する深い意味の表現性ではない。もっと表層的あるいは実用的なといってもよい伝達機能である。そのことに関して、日本語はどのような特徴をもち、それを運用していく上で、どのような問題があるのかを考察する。

そのような目的をもつからには、ことば一般の機能はもちろんのこと、日本語と他の言語との比較が必要となる。よく耳にする「日本語は論理的でない」というような批判は、当然「c」という前提の上になりたつはずである。けれども、その種の批判は、そのような検討を経たものでないことが普通である。仮に、そのような差があるとしても、それは相対的なものであり、根本的な対立であることは、ほとんどない。以下で試みる日本語のわかりやすさの検討は、そのような立場からのものである。

言語とは、誤解を恐れずにいえば、単語と文法規則の集合である。そのふたつさえあれば、言語はなりたつはずである。どのような言語も、単語と文法規則だけの時代を経て、そのちに、文字を獲得している。あるいは、現在でもそのふたつだけしかない言語も存在する。いつてみれば、文字は言語の必要条件ではない。それに対しては、文字を必要としない言語など存在しえないのではないかという疑問が、すぐに提出されそうである。

たしかに、現在の諸言語は、文字をもつものがほとんどである。文字を除いた言語行動だけで運用される言語は、ありえないといってもよい



だろう。しかし、それはすでに文字を獲得した言語が大部分であること、それによって訪れた大量の情報の交換・蓄積という観点から、言語が飛躍的にその運用の面で効率的になったことからの帰結である。音声言語が第一次的記号体系であるのに対し、文字言語は第二次的記号体系であるといつてさしつかえない。日本語も、その例外ではない。

日本語にもともと文字がなかったのは、いうまでもない。漢字を中国から借用し、それからカナ（カタカナ・ひらがな）が生まれた。近代になって、漢字を廃止し、カナ専用あるいはローマ字専用にしようという議論がさかんになったが、実を結ばなかった。漢字は借用文字とはいえず、日本語の中で千年以上の使用の歴史があり、漢字を用いた文献などの情報の蓄積がある。表記要素としての漢字を失うことは、表記体系・語彙体系に大きな欠陥を生じさせるのではないかという主張や想像が、漢字廃止論を成功させなかったおもな理由だとみられる。

どのような言語でも、その要素としての単語には、もともとその言語に含まれていた語（固有語）と別の言語から借り入れた語（借用語）とがある。日本語でいえば、四〜五世紀以降の漢字文化の流入以前に存在していた日本語（原日本語）に由来をもつ語（やま・ひと・みる・たかい…）が固有語である。これは、和語とよばれる。漢字文化とともにはいってきた語（文化・人間・世界・学校…）は、漢語とよばれる。古代の中国音にもとづく音読語であることを特徴とする。十六世紀以降に、主として欧米語からはいつてきた語（パン・ガラス・オムレツ・ガゼ・ラジオ…）は、外来語とよぶ。これらは、西洋からの d という意味で洋語ともいわれる。

漢語と外来語は借用語であるが、漢語は流入の時期が古いため、外来語には含めない。また、漢語の造語法に従って、日本でつくった漢語風の語（御前・出張・風船・水泳…）は漢字音にもとづく音読を特徴とするため、借用漢語とあわせて字音語ともよばれる。和語は、古代大和王朝の成立とかかわりをもつことから、やまとことば（大和言葉）とも称される。

大別すると、日本語の単語はこの三種になる。これを語種の違いとよぶこともある。他の言語との比較の上で特徴的なのは、この三種が文字（表記）とかかわりをもつことである。

外来語は、カタカナで表記される。明治時代までは「巴里（パリ）」「紐育（ニューヨーク）」「硝子（ガラス）」「護謄（ゴム）」のような漢字表記もあったが、現在はほとんどカタカナに統一された。

漢語は、漢字で書かれることを原則とする。もつとも、日本語への定着の度合いの強い「せっかく（折角）」「もちろん（勿論）」「うどん（饅頭）」「ギョーザ（餃子）」など、カナで表記することが普通の語もある。

表記のゆれがもつともはげしいのが和語である。名詞が漢字で書かれる割合は高いが、接続詞・感動詞・助動詞・助詞などはカナで書くのが普通である。そのほかの用言と副詞は、漢字表記とカナ表記がゆれているものが多く、日本語の正書法を困難にする原因になっている。

（野村雅昭『わかりやすい日本語』による）

（注）形態素……意味を持つ最小の言語単位

問一 傍線部(1)「ふつう」という語の使いかたには、きわめて神経を使わなければならない」のはなぜか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 左利きの人が左手で箸を使うことも「ふつう」だから。
- ② 箸を持つ側の手という表現が「ふつう」とは限らないから。
- ③ 「ふつう」「ふつうでない」という判断には個人差があるから。
- ④ 右手で箸を使うことを「ふつう」と決めつけることになるから。
- ⑤ お茶碗を持つ側の手という言い方もあるから。

問二 空欄 a・b に入る適切な慣用句二つを次の中から選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は

。

- ① 言わぬが花
- ② 不言実行
- ③ 目は口ほどにものを言う
- ④ 口を閉じて眼まぶたを開け
- ⑤ 以心伝心

問三 傍線部(2)「はたして」の意味として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

- ① 本当に
- ② 案の定
- ③ 実際に
- ④ 確かに
- ⑤ 思いがけず

問四 空欄  に入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ①  語は難しい
- ②  語は論理性が劣る
- ③  語は論理的である
- ④  語はわかりやすい
- ⑤  語は機能的である

問五 空欄  に入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 造語
- ② 単語
- ③ 外国語
- ④ 借用語
- ⑤ 固有語

問六 傍線部(3)「文字(表記)とかかわりをもつ」とはどのようなことか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は 28。

- ① 日本語は和語・漢語・外来語が、原則としてひらがな・漢字・カタカナに区別されて表記されること。
- ② 外来語は、昔は漢字で書かれていた語もあったが、現在ではほとんどがカタカナ表記になり、漢語は原則として漢字で書かれるが、日本語への定着が強くなるとカナ表記になること。
- ③ 漢字は古代の中国から借用したため、固有語である和語の表記には適しておらず、したがって和語は文字表記のゆれがもつともはげしいこと。
- ④ 漢語と外来語は借用語であるため、古くは表記にゆれがあったが、現在では統一されている。しかし、固有語である和語の表記はいまだに統一されていないこと。
- ⑤ 和語は原則として名詞は漢字で書くが、接続詞・感動詞・助動詞・助詞などはカナで書き、用言と副詞は漢字でもカナでも表記することができること。

問七 本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 29。

- ① ヒトのコミュニケーションでは、ことばがもつとも便利な手段であるが唯一のものではない。
- ② 明治時代まで、外来語を表すために、漢語の造語法にしたがって日本で作った漢語風の語は、読みに音と訓のゆれが激しい。
- ③ 言語が飛躍的に大量の情報の交換や蓄積ができるようになったのは、文字を獲得したからである。
- ④ 日本語も、その要素としての単語に、もともとその言語に含まれていた語と、別の言語から借り入れた語があることは、他の言語と同じである。
- ⑤ どのようなことばも、単語と文法規則の二つがあれば、言語はなりたつはずであるが、意味がかならず伝わるとは限らない。

〔二〕 〈古文〉 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

むかし、男ありけり。娘に、男あはせたりけるが、失せにければ、また異人に婿とらむとしけるを、娘聞きて、母にいひけるやう、「男に具し  
てあるべき末をあらましかば、ありつる男ぞあらましか。さる宿世のなればこそ死ぬらめ。たとひしたりとも、身のくせならばまたもこそ死  
ぬれ。さること思しかく」などいひければ、母聞きておほきに驚きて、父に語りければ、父これを聞きて「我死なむこと近きにあり。さらむ後  
にはいかにして世にあらむ」とて、「さる事は思ひよるぞ」といひて、なほあはせむとしければ、娘の親に申しけるは、「さらばこの家に巢くひ  
て、子生みたるつばくらめの、男つばくらめを取りて殺して、女つばくらめにしるしをしてはなち給へ。さらむに、またの年、男つばくらめ具  
して来たらむ折に、それを見て思し立つべきぞ」といひければ、げにもと思ひて、家に子生みたるつばくらめを取りて、男つばくらめをば殺し  
て、女つばくらめには首に赤き糸を付けてはなち、つばくらめ歸りて、またの年の春、男も具せで、ひとり首の糸ばかり付きてまうで来たれば、  
それを見てなむ、親どもまた男あはせむの心もなくて、やみにけり。むかしの、女の心は今様の女の心には似ざりけるにや。つばくらめ、男  
ふたりせずといふこと、文集の文なりとぞ。

〔俊頼髓脳〕による

(注) 文集……『白氏文集』。

問一 傍線部(1)・(2)の意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

31。

30

- (1) あはせ
- ① 出会う
  - ② 結婚させる
  - ③ 向かわせる

30

- ④ 合算する
- ⑤ 釣り合わせる

- (2) 具し

- ① そなわる
- ② 付け足して添える
- ③ 供として従える
- ④ 配偶者として連れ添う
- ⑤ 持ち合わせる

31

問二 傍線部a「けり」・b「ける」の活用形として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号はa

32

・bは

33

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形
- ⑥ 命令形

問三 傍線部(ア)「とること」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 自分は男性と生涯をともにする運命ではない。
- ② 死別された夫のことはどうしても忘れることができない。
- ③ 夫が早く亡くなったのは夫の運命である。
- ④ 死別したとはいえ、夫とは前世からの縁がある。
- ⑤ 別の男性と新しい結婚生活を送る決心が出来ている。

問四 傍線部(イ)「思し立つべきぞ」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 亡き前夫の後を追って自ら死ぬ
- ② 俗縁を断ち切り出家を決心する
- ③ 別の男と再婚することを考える
- ④ 自分の将来を計画し直す
- ⑤ 前世からの縁という考えを改める

問五 傍線部(ウ)「やみにけり」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 娘の堅い意志に感心して、それ以上説得するのは無駄だとあきらめた。
- ② はたして燕は一羽だけ戻ったので、娘の予言に驚き、動揺した。
- ③ 鳥でさえ夫婦の縁に従っており、人間はなおさらだと悟った。
- ④ 燕つばめを実例に取り上げ、科学的に説得する娘にかなわないと思った。
- ⑤ 動物でさえ次々に配偶者をかえることをしないと見て再婚させるのをやめた。

問六 傍線部(エ)「むかしの、女の心」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 一度結婚すると、夫との愛情を大事にし、操を守り通していた。
- ② 結婚できないのは夫と前世の縁がないからと考えられていた。
- ③ 家族への愛情について人間が動物に見習うべきだと考えていた。
- ④ 自身の意志を貫く一方で、親の助言や心配を受け止める気持ちはない。
- ⑤ 一度配偶者に死別されると悲観的になり、再婚する勇氣を持たなくなる。